

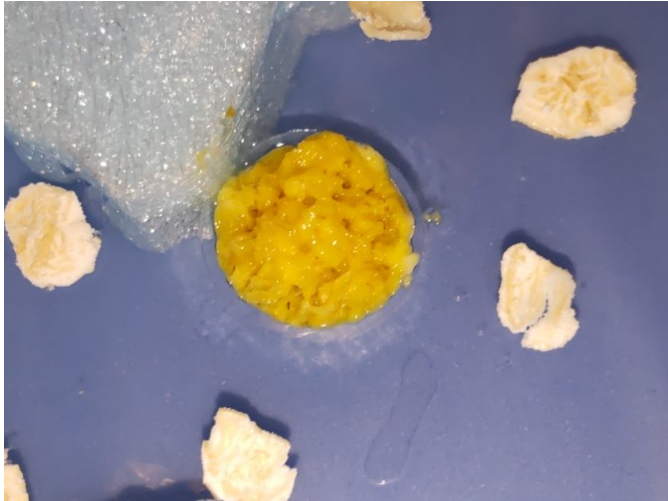
「北海道の実験 (3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

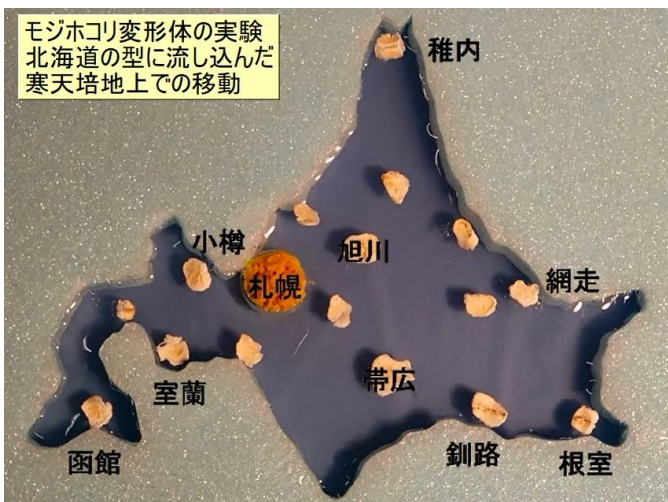
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

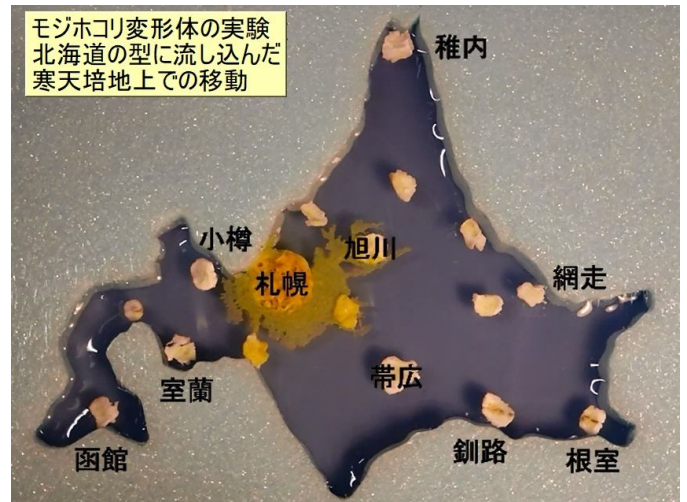
変形菌「北海道の実験」では、地理的には「北海道のへそ」とも称される富良野市が中心かも知れない。しかしやはり、北海道の政治的・経済的な中心市で、人口も一番多い札幌市に変形体を置くことにした。



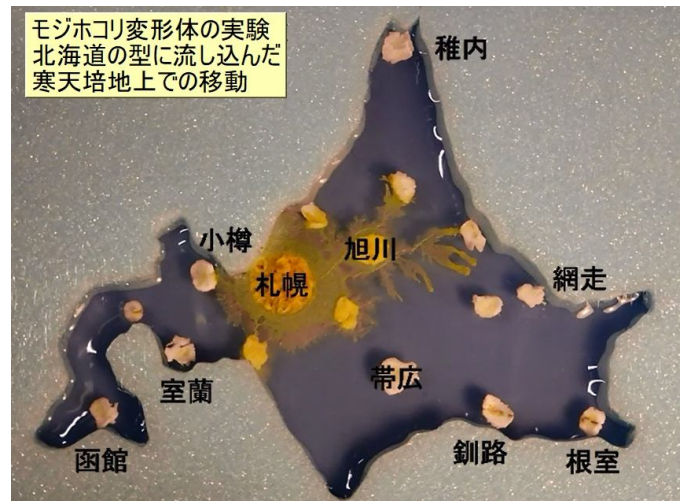
寒天培地に直径 15mm 程度の穴をあけ、そこに変形体塊を置いた。こうすると、変形体が寒天培地に包まれる(囲まれる)ような位置になり、長時間水分が保持される。また周囲の寒天培地と直接接するので、変形体の移動開始が早まるのだ。



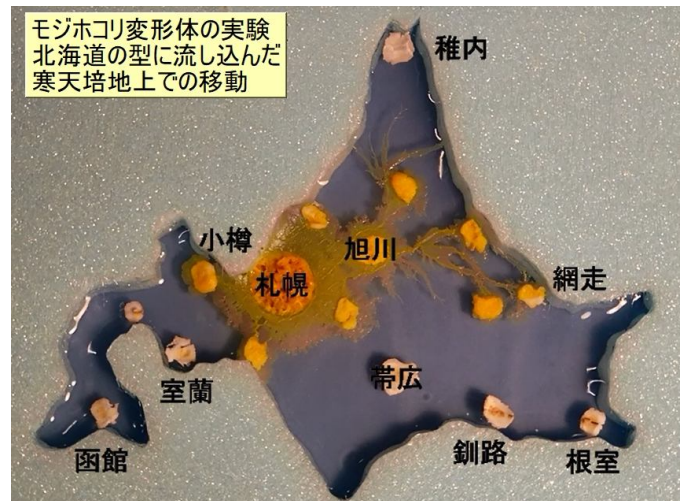
餌のオートミールは、北海道の主要都市に置いてみた。札幌周辺の衛星都市は、最初に置いた変形体にほぼ包含されている。中には人口の少ない町も含まれているが、鉄道網を作らせる上で、どうしても必要な駅のある町には置くことにした。



実験を始めて数時間後、さっそく変形体が移動を始めた。札幌圏に近い旭川、苫小牧、富良野に達している。札幌と富良野の間には山地があるが、この実験では地形は無視されている。



「占拠された街」は変形体に覆われて「黄色が点灯する」ので、非常にわかりやすい。旭川からは北の「宗谷本線」と東の「石北本線」の建設が始まっている。



北は名寄、東は紋別、北見、網走にまで達した。西はゆっくりだ、やっと小樽に到達している。